

写真複写

参謀本部第二十班 (第十五課)

今後採るべき戦争  
指導の基本大綱

御前会議議事録

昭和二十年六月八日

防衛研修所戦史室

防  
241  
2020特  
12

186

0822



昭和日記特

昭和二〇六年

0825

別 紙

丁今後探及太平洋戰爭指導ノ基本方針

昭和二十年六月八日 御前會議ニ於テ

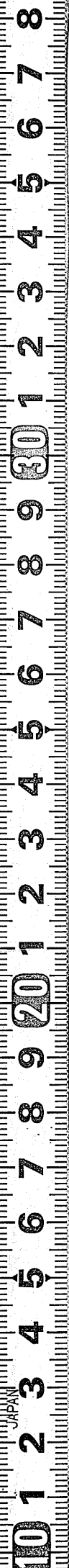
內閣總理大臣 男爵 齋 藤 實 本 部

樞密院議長 男爵 平 沼 騏 一郎

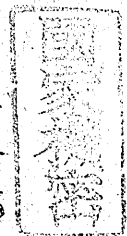
海軍大臣 末 次 光 政

陸軍大臣 阿 南 惟 幾

齋 藤 實 本 部



參謀次長



貳拾部ノ内第 3 號

今後採ルベキ戰爭指導ノ基本大綱

方針

七生盡忠ノ信念ヲ源力トシ地ノ利人ノ和ヲ以テ飽ク迄戰爭ヲ完遂シ以テ國體ヲ護持シ皇土ヲ保衛シ征戰目的ノ達成ヲ期ス

要領

- 一 遠クニ皇土戰場態勢ヲ強化シ皇軍ノ主戦力ヲ之ニ集中ス  
爾他ノ疆域ニ於ケル戦力ノ配置ハ我が實力ヲ勘案シ主敵米ニ對スル戰爭ノ遂行ヲ主眼トシ兼ニテ北邊ノ情勢急變ヲ考慮スルモノトス
- 二 世界情勢變轉ノ機微ニ投ジ對外諸施策特ニ對「ソ」對支施策ノ括

參謀總長代理	軍令部總長	大東亞軍	陸軍大臣	軍需大臣
參謀長	參謀部總長	東亞軍	石川	豐田
參謀部	參謀部	參謀部	參謀部	參謀部
參謀部	參謀部	參謀部	參謀部	參謀部

2

012345678910111213141516171819202122232425262728293031323334353637383940



### 世界情勢判断

概ネ昭和二十年末ヲ目途トスル世界情勢ノ推移ヲ判断シ今後ノ戦争指導ニ資セントス

#### 第一 敵側ノ情勢

主敵米國ハ出血ノ累加「ルト・ズヴェルト」ノ死去、歐洲戦争ノ終結ニ伴フ戦争倦怠氣分等戦争指導上ノ惱ヲ包藏シツツモ尙豊富ナル物力ヲ以テ單獨ニテモ速カニ對日戦争ヲ終結セシメントスル戰意旺盛ニシテ對日作戰強行ニ邁進スヘシ英國ハ歐洲戦争終了後ヲルベク早期ニ終戦ヲ希望シアルヘキモ對日戦争指導ハ米國ノ主導スル所ナルヲ以テ大勢ヲ左右シ得サルヘク結局英國ハ全世界ニ於

發強力ナル實行ヲ期シ以テ戦争遂行ヲ有利ナラシム

三 國內ニ於テハ舉國一致皇土決戦ニ即應シ得ル如ク國民戦争ノ本質ニ徹スル諸般ノ態勢ヲ整備ス。就中國民義勇隊ノ組織ヲ中軸トシ益々全國民ノ團結ヲ鞏化シ愈々戰意ヲ昂揚シ物的國力ノ充實特ニ食糧ノ確保竝特定兵器ノ生産ニ國家施策ノ重點ヲ指向ス

四 本大綱ニ基テ實行方針ハ夫々擔任ニ應ジ具體的ニ企畫シ速急ニ之ガ實現ヲ期ス



JAPAN 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

ケル米國トノ協調ノ必要性竝彼ノ豫想スル戰後ノ東亞處分ニ際ス  
ル自國ノ發言權確保ノ爲對日戰爭參加ヲ繼續シ且東亞兵力ヲ  
增強スヘシ重慶ハ延安トノ抗爭及「ソ」ノ動向ニ關シ苦惱ヲ藏シ  
居ルモ尙米ノ利用ニ依ル對日戰完遂ト其ノ國際的地位ノ向上ヲ企  
圖シ米ノ支那大陸又ハ日本本土作戰ニ呼應シ積極的反攻ヲ展開ス  
ヘシ

以上ノ大勢ニ拘ラス特ニ歐洲ニ於テハ米英對「ソ」ノ角逐漸次表  
面化シ來リ又米英重慶相互間ニモ戰爭目的ノ不一致アリテ反樞軸  
側結束ハ弱体化ノ傾向ニアリ、然レトモ妥協ニ依リ當面ヲ糊塗ス  
ルニ努ムヘク彼等陣營ノ結束ハ遽カニ崩ルルコトナカルヘシ但シ

帝國カ毅然トシテ長期戰完遂ニ邁進シ大出血ヲ強要シ本年後期ニ至ラハ敵側ノ繼戰意志ニ相當ナル動搖ヲ生來セシメ得ルコトナシトセス

## 第二 「ソ」ノ動向

「ソ」ハ歐洲戰ノ終結ニ伴ヒ歐洲ニ對スル戰後處理竝自國ノ復興ニ勉ムルト共ニ大東亞戰爭ニ對シテハ自主的立場ヲ持續シツツ機ニ應シ東亞就中滿支方面ニ對シ勢力ノ伸張ヲ企圖スヘシ而シテ帝國ニ對シテハ累次措置ニヨリ要スレハ何時ニテモ敵對關係ニ入り得ル外交態勢ヲ整ヘ居ルト共ニ東「ソ」ノ兵備ヲ強化シツツアルヲ以テ益々政略的壓迫ヲ加重シ大東亞戰況帝國ニ甚タシ

ク不利ニシテ自己ノ犠牲少シト判断スル場合ニ於テハ對日武力發  
動ニ依ル野望達成ニ出ツル算大ナリ然レトモ米ノ東亞進出ニ對ス  
ル牽制的意味合ヨリシテ比較的早期ニ武力行使ニ出ツルコトナシ  
トセサルヘシ

8

其ノ時期ハ敵ノ本土又ハ中北支方面上陸ノ時期、北滿ノ作戰的氣  
象條件及東「ソ」兵力集中ノ狀況等ヨリ見テ本年夏秋ノ候以降特  
ニ警戒ヲ要スヘシ

尙「ソ」トシテハ米ノ希望ノ實現ヲ助ケカネテ自己ノ意圖達成ヲ  
目途トシテ我ニ對シ米トノ和平ヲ強要スル場合ナシトセサルヘシ

### 第三 東亞ノ情勢



一、太平洋方面

米英ハ有利ナル戰勢ニ乘シ帝國本土ヲ成ルヘク速カニ大陸ヨリ分斷スルト共ニ熾烈ナル航空作戰ニ依リ帝國ノ無力化ヲ策シ、  
ツツ一舉ニ帝國本土ニ對シ短期決戰ヲ企圖スヘシ之カ爲南西諸島ニ於テ更ニ徹底セル戰果ヲ擧ケ得サレハ之カ攻略ニ引續キ附近基地ヲ擴充シ六月下旬以降直路九州四國方面、狀況ニ依リ朝鮮海峽方面ニ對スル上陸作戰ヲ強行シ次イテ初秋以降決戰作戰ヲ關東地方ニ指向スルノ算大ナリ  
又對日基地獲得及「ソ」支政略ヲ目的トスル中北支要地作戰ヲ行フコトアルヘシ尙失地回復及對支補給等ヲ目的トシ本土及其ノ他ノ作戰ト併行的ニ中南支沿岸作戰ヲ企圖スルコトアルヘシ

歐洲戰ノ終結ニ伴ヒ夏季以降相當量ノ敵就中大規模飛行機ノ來攻

ヲ豫期シ置クノ要アリ

### ニ支那方面

重慶ハ米ノ支援ニ依リ基幹戦力ノ米式強化ヲ圖ル一方空軍ノ  
増勢ト相俟チテ米ノ作戰ニ策應シ秋季以降對日全面的反攻ヲ實  
施スルノ算大ニシテ米ノ進出積極化スルニ伴ヒ大陸戰線亦眞ニ  
重大ナル局面ニ遭逢スルモノト豫想セララル

又我カ占據地域ニ對スル敵特ニ延安側ノ遊撃反攻ハ益々激化セ  
ラルヘシ

重慶ト米トノ關係ノ現況ニ照シ當面日支間ノ全面和平ヲ實現セ

此ノ如ク我々ノ進軍ハ南洋方面ニシテハ引續キ陸海空ノ壓力加重ニ依リ同方面ニ於  
 ケル我カ戰略態勢ハ緊縮スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ又敵  
 ハ太平洋方面ノ攻勢ト關聯シ「ボルネオ」上陸作戰ヲ加強シ又  
 近ク馬來半島、「スマトラ」及其ノ他要地ニ上陸シ政謀略ヲ強  
 化シツツ逐次爾他各地域ヲ蠶食シ其ノ要域ノ奪回ヲ企圖スヘシ

シムルコト至難ナルモ支那ノ再戰場化、米完勝ニ依ル東亞制覇  
 ノ前途ニ對シテハ一抹ノ不安ヲモ包藏シアルト共ニ他面延安勢  
 カノ浸潤擴大就中「ソ」ノ壓力增大ノ可能性ニ就テハ深刻ナル  
 苦惱内在シアリ

三、南方方面

緬甸方面ニ對シテハ引續キ陸海空ノ壓力加重ニ依リ同方面ニ於  
 ケル我カ戰略態勢ハ緊縮スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ又敵  
 ハ太平洋方面ノ攻勢ト關聯シ「ボルネオ」上陸作戰ヲ加強シ又  
 近ク馬來半島、「スマトラ」及其ノ他要地ニ上陸シ政謀略ヲ強  
 化シツツ逐次爾他各地域ヲ蠶食シ其ノ要域ノ奪回ヲ企圖スヘシ

大東亞諸邦ノ動向  
大東亞諸邦ハ大東亞戰局ノ推移ト敵側政謀略ノ激化ト相俟ツテ  
對日非協力態度漸次表面ニ露呈シ中ニハ遂ニ敵性化スルモノアリ  
ルニ至ルヘシ

大東亞諸邦ノ動向

大東亞諸邦ハ大東亞戰局ノ推移ト敵側政謀略ノ激化ト相俟ツテ  
對日非協力態度漸次表面ニ露呈シ中ニハ遂ニ敵性化スルモノアリ  
ルニ至ルヘシ

判 決

今や戰局ハ帝國ニ取リ極メテ急迫シ歐洲盟邦モ既ニ崩壞シ「ソ」ノ對  
日動向亦最モ警戒ヲ要シ帝國ハ眞ニ存亡ノ岐路ニ立チ居ルモ敵亦苦惱  
ヲ包藏シ短期終戰ニ狂奔シツツアリ

從ツテ帝國ハ牢固タル決意ノ下必勝ノ鬪魂ヲ堅持シ皇國傳統ノ忠誠心  
ヲ遺憾ナク發揮シ速カニ政戰略施策ヲ斷行シ以テ戰勝ノ神機ヲ捕捉ス  
ルニ遺憾無カラシムルヲ要ス



國 力 ノ 現 狀

一、要旨

戰局ノ急迫ニ伴ヒ陸海交通並ニ重要生産ハ益々阻害セラレ食糧ノ逼迫ハ深刻ヲ加ヘ近代的物的戰力ノ綜合發揮ハ極メテ至難トナルベク民心ノ動向亦深ク注意ヲ要スルモノアリ

從ツテ之等ニ對スル諸施策ハ眞ニ一瞬ヲ爭フベキ情勢ニ在リ

二、民心ノ動向

國民ハ胸底ニ忠誠心ヲ存シ敵ノ侵寇等ニ對シテハ抵抗スルノ氣構ヲ有シアルモ他面局面ノ轉回ヲ冀求スルノ氣分アリ

軍部及政府ニ對スル批判遂次盛下ナリ動モスレバ指導層ニ對スル  
信頼感ニ動搖ヲ來シツツアル傾向アリ且國民道義ハ頽廢ノ兆アリ  
又自己防衛ノ觀念強ク敢闘奉公精神ノ昂揚充分ナラズ庶民層ニハ  
農家ニ於テモ諦觀自棄的風潮アリ指導的知識層ニハ焦燥和平冀求  
氣分底流シツツアルヲ看取スカカル情勢ニ乘ジ一部野心分子ハ  
變革的企圖ヲ以テ蠢動シアル形跡アリ  
沖繩作戰最悪ノ場合ニ於ケル民心ノ動向ニ對シテハ特ニ深甚ノ注  
意ト適切ナル指導トヲ必要トス 尙今後敵ノ思想攪亂行動ハ盛ト  
ナルヲ豫期セザルベカラズ

三人的國力

(1) 人的國力ハ戰爭ニ因ル消耗モ未ダ大ナラズ物的國力ニ比スレバ尙餘裕アリ唯其ノ使用概シテ効率的ナラズ動員及配置ハ生産ノ推移ニ即應セズ人員ノ偏在遊休化ヲ見ツツアル現狀ニシテ徹底的配置轉換及能率増進ヲ強行スレバ人的國力ノ部面ニ於テハ戰爭遂行ニ大ナル支障ナク之ガ活用ノ如何ニ依リテハ戰力造出ノ餘地アリト認メラル但シ今後ニ於テ大規模ノ兵力動員アルニ於テハ必スシモ樂觀ヲ許サザルモノアリ

(2) 戰爭ニ基ク増殖率低下ノ徵漸ク顯ハレ且體位ノ低下ハ特ニ戒心ヲ要ス



汽船輸送力及通信

(1) 汽船輸送力ニ付テハ使用船腹量急激ニ減少シテ現在約百万噸屯ナルモ而カモ燃料ノ不足、敵ノ妨害激化及荷役力ノ低下等ノ爲著シク選航ヲ阻害サレアリ若シ最近ニ於ケル損耗ノ実績ヲ以テ推移スレバ本年末ニ於テハ使用船腹量ハ殆ンド皆無ニ近キ状態ニ立到ルベシ且大陸トノ交通ヲ確保シ得ルヤ否ヤハ沖繩作戰ノ如何ニ懸ル處大ニシテ最悪ノ場合ニ於テハ六月以降殆ド其ノ計畫的交通ヲ期待シ得ザルニ至ルベシ

機帆船輸送力モ亦燃料不足及敵ノ妨害ニ因リ急激ニ減少スル虞大ナリ

(ロ) 鐵道輸送力ハ最近ニ於ケル車輛ハ施設等ノ疲弊ニ加ヘ空襲被害ニ因リ逐次低下シツツアリ今後敵ハ交通破壞空襲ヲ激化スベク爲ニ鐵道輸送力ハ各般ノ努力ヲ盡シツツアルモ前年度ニ比シ二分ノ一程度ニ減退スベク特ニ中期以降一貫性ヲ喪失シ局地輸送力トナル虞大ナリ

(ハ) 陸上小運送力竝ニ港灣荷役力ハ資材、燃料及勞務事情竝ニ運管体制ノ不備等ニ伴ヒ末端輸送及海陸輸送ノ接續ノミナラズ鐵道及海上輸送自体ニ對シテモ重大ナル隘路ヲ形成シツツアリ尙港灣ニ付テハ今後敵襲ニ依リ其ノ機能ヲ停止セララルル虞大ナリ

(ニ) 通信ハ資材、要員等ノ事情竝ニ空襲被害ニ因リ其ノ機能ヲ阻害

セラレツツアリ今後空襲激化等ニ伴ヒ本年中期以降ニ於テハ各種通信連絡ハ甚シク困難トナルベシ

### 兵物的國力

(イ) 鐵鋼生産ハ主トシテ原料炭及鑽石ノ輸送入手難ニ因リ現在概テ前年同期ニ比シ四分ノ一程度ニ陷リ鋼船ノ新造補給ハ本年中期以降ハ全然期待シ得ザル狀況ナリ尙所在資材ノ活用戰力化ニ付テモ實行上多大ノ困難ヲ克服スルノ要アリ

(ロ) 東部及西部地域ニ對スル石炭ノ供給ハ生産及輸送ノ減少ニ伴ヒ著シク低下シ空襲被害ノ増大ト相俟ツテ中樞地帯ノ工業生産ハ全面的ニ下向シツツアリ中期以降ノ輸送ノ狀況ニ依リテハ中樞地帯ノ工

業ハ石炭供給ノ杜絶ニ依リ相當部分運轉休止トナルノ虞大ナリ

(ハ)大陸工業鹽ノ還送減少ニ因リ曹達ヲ基盤トスル化學工業生産ハ加速的ニ低下シツツアリ特ニ中期以降原料鹽ノ取得ハ危機ニ直面スベク之ガ爲輕金屬及人造石油ノ生産ハ固ヨリ火藥、爆藥等ノ確保ニモ困難ヲ生ズルノ結果トナルベシ

(ニ)液体燃料ノ供給ハ今後日滿支ノ自給ニ俟ツノ外ナク貯油ノ拂底ト増産計畫ノ進行遅延ニ伴ヒ航空燃料等ノ逼迫ハ中期以降戰爭遂行ニ重大ナル影響ヲ及ボス情勢ナリ

(ホ)航空機ヲ中心トスル近代兵器ノ生産ハ空襲ノ激化ニ因ル交通及生産ノ破壊竝ニ前記原材料、燃料等ノ逼迫ノ爲在來方式ニ依ル量産

遂行ハ速カラズ至難トナルベシ

### 六 國民生活

(1) 食糧ノ逼迫ハ漸次深刻ヲ加ヘ本端境期ハ開戦以來最大ノ危機ニシテ大陸糧穀及食糧鹽ノ計畫輸入ヲ確保シ得ルトモ今後ノ國民生活活ハ強度ニ規制セラレタル基準ノ糧穀ト生理的必要最少限度ノ鹽分ヲ漸ク攝取シ得ル程度トナルヲ覺悟セザルベカラズ

更ニ海外轉移入ノ妨害、國內輸送ノ分斷、天候及敵襲等ニ伴フ生産減少等ノ條件ヲ考慮ニ入ルルトキハ局地的ニ饑餓状態ヲ現出スルノ虞アリ治安上モ樂觀ヲ許サズ

尙來年度ノ食糧事情ガ本年度ニ比シ更ニ深刻化スベキハ想察ニ難カ